

## 2024年度第2学期始業式校長挨拶（2024.9.7）

皆さんおはようございます。夏休みが終わりました。この夏休み、何かに挑戦した人、部活動に打ち込んだ人、逆にボーッとして時間が過ぎていった人もいるかもしれません。高3生は受験勉強がはかどった人もいるでしょうし、なかなか手がつかなかったという人もいるかもしれません。色々でしょうが、どれもよいと思います。

2学期が始まりました。

本題のお話に入る前に、この夏休みに行った学校の工事について報告をします。

グラウンド前に面した西棟1階に技術工作室を整備しました。また、各教室バルコニーの手摺を安全管理の面も含め、全部取り替えました。そして、この間進めていた教室内の机と椅子の取り換えについて、これまで順次進めてきましたが、この夏は中1・中2の交換を行い、完成しました。

次に、この夏休みの武蔵生諸君の活躍について報告します。まず水泳部。7月20日に茨城県で開催された水球の関東大会に東京都代表として出場しました。初戦で強豪前橋商業高校に当たり、残念ながら1対16で敗れました。でも頑張りました。1点を取った。特に高3の諸君は最後まで部活をやりとげて立派だと思います。

次に中3軟式テニス部の諸君。区大会で勝ち上がり都大会に出場。7月24日、都大会の一回戦も勝ち上がり、団体戦でベスト32に入りました。おめでとうございます。

そして化学グランプリ2024で高1の加藤君が見事銅賞を受賞。約2700名の参加者がある中で、一次予選を突破し、上位71名に入りました。金賞、銀賞には届かなかったのが悔しい思いもあるでしょうが、来年開催される世界大会の日本代表候補にも入っています。まだ高1生。頑張ってもらいたいです。

さて、今日の本題ですが、私が夏休みに体験したことについてお話します。

民間教育団体の視察メンバーの1人として、インドとシンガポールに行き、それぞれの学校や大学を視察してきました。それぞれ3日ほどの視察ですし、インドやシンガポールの一面しか理解していないと思いますが、それでもいろいろと感じたことはありました。皆さんに紹介したいと思います。

なぜ今回出かけたかという、狙いが2つあります。1つはアジアを知ること。武蔵は、中国や韓国との交流はありますが、東南アジアや南アジアとの交流は現状ではありません。もう1つは、武蔵が「東西文化融合」という理念を掲げていることから、何かそれに資する可能性がないかと考えたからです。

まずインドですが、世界の四大文明発祥の地であり、長い歴史と文化を持っている国です。人口は14億人を越え、世界第1位。日本の10数倍です。平均年齢は29.8歳というパワーのある国です。近年インドが世界的に注目されているのは、その人口動態もそうですが、グローバル企業や政治の世界で活躍している人材を多数輩出していることによります。

私の印象ですが、「光と闇の国」という印象を受けました。激しい競争を生き抜いてきた人はまばゆい光を放っていますが、街中にはテントの屋根で過ごしているスラム街や物乞いをする人々も多数みかけました。空港を降りた途端、多くの野犬が寄ってきたことや、道路も車線も関係なく混雑し、その中を牛が悠然と歩いていたことにも驚きました。インド工科大学（IITs）やインドの高校も訪問しました。そこで学ぶ高校生たちは、ある意味ではエリートなのですが、「社会をよくしたい」という志や将来に対するキャリアプランも明確に語ってくれて、素晴らしいなと思いました。

次にシンガポールですが、淡路島や東京23区と同程度の面積を持つ、マレー半島先端の島国です。1965年に独立した新しい国で、貿易中継港として発展してきたため、マレー人、中国人、インド人など、多民族多宗教がうまく共存しています。

私の印象ですが、天然資源のない国がいかに生き残るかの戦略を本気で考えている国だと思いました。具体的にはアジアのハブとして、ヒト・カネ・モノ（企業、資本、金融、観光）を呼び込みつつ、スタートアップ支援を積極的に行うとともに、教育

や人材育成に力を入れていることなどです。(PISA テストでは世界最上位の成績を収めている一方、12歳での全国統一テストについては、弊害もあるようですが…) QS 世界大学ランキングで、アジア最上位のシンガポール国立大学 (NUS) を訪問するとともに、この地でスタートアップに関わる皆さんとも出会いましたが、その熱量には感銘を受けました。

インドもシンガポールも対照的な国情ですが、ともに英語を公用語として使っていることもあり、それぞれの国の人々がグローバルな世界で活躍をしている点では一致しています。そして、それぞれの教育機関ではディスカッション能力も鍛えられており、そうしたこともあるかもしれませんが、彼らの持つ突破力・応用力は素晴らしいと思いました。

世界は動いています。そしてアジアの若者も志を持っています。私は日本人の若者も負けず劣らず、大いなる可能性を持っていると思います。武蔵生諸君も、是非とも、「たった一度の人生どう生きるのか」を考え、それぞれの「知好楽」を伸ばしてほしいと思います。そして、できるだけ若い時期に、狭い世界を飛び出して、世界を知ることも大事だと思います。

最後に、フランスのラ・ロシェルから約1か月、武蔵に来ることになった2人の留学生を紹介します。それぞれ簡単にスピーチをしてもらいます。また、今後ドイツ・ベ

ルリンからも留学生がやってきます。どうぞよろしくお願いします。

結びになりますが、2学期が実り多い時間となることを期待して、私の始業式の挨拶とします。